



SSH 通信



広島大学附属高等学校

SSH 通信作成委員

2025 年度 第 9 号

2026 年 2 月 13 日発行

皆さんこんにちは。2025 年度の SSH 通信作成委員です。この SSH 通信では、本校の SSH プログラムの 1 年間の活動をお伝えしていきます。第 9 号では、高校 II 年生 AS コース希望者が 12 月 15 日（月）～21 日（日）に参加したタイ海外研修（TJ-SSF2025）と、1 月 12 日（月）～14 日（水）に参加した韓国（チョナン）海外研修についてお知らせします。

<タイ海外研修（TJ-SSF2025） 12 月 15 日（月）～21 日（日）>

【概要】

高 II AS コースの希望者 4 人で、タイのプリンセスチュラポーンサイエンスハイスクール（PCSHS）パトゥムターニー校で開催された TJ-SSF（Thailand-Japan Student Science Fair）2025 に参加しました。TJ-SSF とは 2 年おきに開催される生徒向けの国際的な科学フェアで、日本からは全国の SSH 指定校と高専の生徒、タイからは PCSHS 系列の生徒が参加します。本校は PCSHS ムクダハン校と海外連携を行っており、このフェアの中でムクダハン校の生徒たちとも交流を行いました。

TJ-SSF は行程の 2 日目（Day 1）から 5 日目（Day 4）で参加しました。Day 1 で PCSHS パトゥムターニー校に到着し、オリエンテーションに参加しました。Day 2 に開会式が開かれ、その後ポスター発表を実施しました。Day 3 ではスライドを用いた口頭発表を行い、午後から Science Program に参加しました。そして最終日となる Day 4 では午前中に Science Trip に参加し、その後閉会式が行われました。Day 1 から Day 4 の間は PCSHS パトゥムターニー校内にある寮で過ごし、タイの生徒や日本の他の学校の生徒たちと時間を共にしました。



【海外研修で得た学び】

- ・TJ-SSF では、ポスター発表と口頭発表という 2 つの発表を英語で行う経験しました。7 月のサイエンスフェア 2025 in Hiroshima で英語でのポスター発表は経験しましたが、今回はそれ以上に専門的な質問をいただき、まず質問内容を理解すること、そしてそれに対して適切に英語で答えることの難しさを改めて実感しました。母語での発表ではないからこそ、単なる発表の練習だけではなく、質疑応答まで想定した入念な準備が必要であると感じました。
- ・発表を行ったり聞いたりする中で、日本とタイの学問的価値の違いを感じることができました。現在私たちが行っている研究は主に現象そのものに焦点を当てており、それがどのように実用化できるかについてはこれからの課題となっています。一方で、タイで行われている研究の多くは「その研究が社会にどのように活かされるのか」に焦点が当てられており、「実用化」という視点がより大切にされているように感じました。私たちもこれから研究を進めていく上で、「今行っている研究がどのように私たちの実生活につながるのか」を考えていきたいと思えます。

<韓国（チョナン）海外研修 1 月 12 日（月）～14 日（水）>

【概要】

高 II AS コースの希望者 27 人で、本校の海外連携校の 1 つである韓国のチョナンチュンアン高等学校を訪問しました。今年度は交流の機会が 2 回あり、今回の研修は 7 月に本校が広島で開催したサイエンスフェア以来の交流となりました。

この研修は 2 泊 3 日で実施されました。初日は移動日で、広島空港から韓国の仁川空港まで移動しました。実際に学校を訪問したのは 2 日目で、この日に開講式や科学の共同授業、研究のポスター発表などを行いました。共同授業では生徒たちが 2 つのクラスに分かれ、それぞれ化学と地学の内容で学習を行いました。最終日となる 3 日目に閉講式が開催され、その後仁川空港から広島空港へ戻ってきました。

【海外研修で得た学び】



- ・日本と韓国、距離は近いものの文化や価値観は異なっており、研究に対して異なる視点からアイデアを得られる機会となりました。私たちのグループは実験の手法に課題があるのではと考えていましたが、質疑応答などを通して、データの分析の面でもさらなる改善が必要であることが判明しました。データ分析面の課題も含めて、2 月の発表までにより一層研究を進めていきたいと思えます。
- ・サイエンスフェアで韓国の生徒と交流した経験があり、また 12 月の SEA（Science English Arena）プログラムに参加して英語でコミュニケーションをとる練習をしていたため、今回の研修では思っていた以上に私の考えを韓国の生徒に伝えることができました。専門用語などは前もって英語を調べておく必要がありますが、即興でのコミュニケーションではそれ以上に「今の自分で表現できるレベルで」話して伝えることが重要だと気づく機会になりました。

第 10 号では、2 月 20 日（金）に実施された SSH の日（課題研究成果発表会）について紹介する予定です。